

ほんわ館だより

令和7年4月発行
第151号

中山町立図書館
開館 10:00～19:00
休館日 4/7.14.21.28

4月の展示コーナー



- ★おすすめコーナー 『コミックエッセイ』
- ★児童書コーナー
 - ・絵本コーナー 『みんなのはる』『えほんであそぼう』
 - ・円形コーナー 『図書館』
 - ・空中図書コーナー 『みんなともだち』
 - ・小学生おすすめコーナー 『体・こころ』
- ★2階掲示板 『社会人におすすめ本』

毎月趣向をこらした館内展示
をお楽しみください♪

★今月のおはなし会★

4月19日(土)11:00～
ほんわ館 多目的室

赤ちゃんも大人の方も
一緒にどうぞ
ほんわかっぱ一座が
待ってるよ♪



♥お誕生日おめでとう!!

4月30日にほんわ館が13歳に
なります!!



最近入った本を紹介します

※ここに紹介した他にも
たくさん入っています

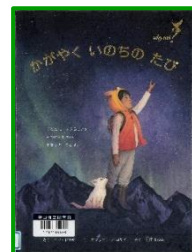
【こどもの本(えほん)】



◀『わたしはBIG!』
ありのままで、かんぺき』
ワシティ・ハリソン/作
ジェーン・スー/訳
ポプラ社



◀(紙芝居)
『つるの
おんがえし』
坪田 譲治/脚本
松成 真理子/絵
童心社



◀『かがやく
いのちのたび』
コビ・ヤマダ/さく
ガブリエラ・パロウチ/え
前田 まゆみ/やく
パイ インターナショナル

【文芸書】書名	編著者名	【こどもの本】しよめい	かいた人
『老いはヤケクソ』	佐藤 愛子/著	『十年屋8』	廣嶋 玲子/作
『リペアラー』	大沢 在昌/著	『はじめての国宝』	青柳 正規/監修
『星の教室』	高田 郁/著	『ライフライン大図解』1～3	石井 正弘/監修
『月収』	原田 ひ香/著	『ネットでいじめられたら、 どうすればいいの?』	春名 風花/著
『しずかなパレード』	井上 荒野/著	『なんで人は青を作ったの?』	谷口 陽子/著
『猫の刻参り』(三島屋変調百物語10)	宮部 みゆき/著	『おさるのしま』	いとう ひろし/作・絵
『吉川英治三国志1～10』大活字本	吉川 英治/著	【教養書】書名	編著者名
『逃亡者は北へ向かう』	柚月 裕子/著	『山登りを趣味にする』	かほ/著
『二人一組になってください』	木爾 チレン/著	『るるぶ東京レトロ名建築』	皆川 典久/監修
『天地震撼』	伊東 潤/著	『僕には鳥の言葉がわかる』	鈴木 俊貴/著
『図書館の魔女 高い塔の童心』	高田 大介/著	『44の茶箱あそび』	多田 けい子/著
『イクサガミ』1～3	今村 翔吾/著	『野草とハーブのレシピ』	農山漁村文化協会/編
『サンセット・サンライズ』	楡 周平/著	『ぼくたちはChatGPTをどう使うか』	東大カルベディエム/著
『今夜はジビエ』	小川 糸/著	『変えること変わらないこと』	内田 彩仍/著
『月とアマリリス』	町田 そのこ/著	『江戸時代のオタクファイル』	辛酸 なめ子/著
『初瀬屋の客』	西條 奈加/著	『22世紀の資本主義』	成田 悠輔/著
『楽園のタベ』	ルシア ベルリン/著	『肝臓大復活』	栗原 毅/著
『文明交錯』	ローラン ビネ/著	『対馬の海に沈む』	窪田 新之助/著

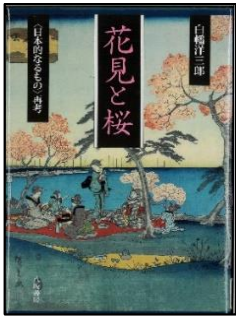


本の歳時記



— 花見にダンゴ —

春の風物詩となっている花見は、奈良時代に貴族の行事として中国から伝わったとされています。初めは梅の花を鑑賞していましたが、平安時代になると桜に代わります。また、花見に付きもののダンゴは、花見の風習が庶民に広がった江戸時代から定番になったようです。



『花見と桜』

『花見と桜』（白幡洋三郎//著 八坂書房）

花の鑑賞は世界中どこでも行われていて花好きは沢山います。しかし日本と同じような花見をする国はあるだろうか。著者は海外生活の体験を機にヨーロッパ諸国や南北アメリカ、アジア諸国などの観察を重ねたが花見の習慣は見つけられなかった。ガーデニング好きのイギリス人でさえ、満開の桜並木に立ち止まることもなければ、頭上の花に視線を向けることもなく立ち去って行く。群生した桜の下で群集がそろって飲食をする花見こそ、世界に類を見ない日本固有の文化であると。そして、桜花に投影されてきた個々人の精神ではなく、花見という行動に映し出される集団の精神に日本文化の本質が見えると花見論を展開しています。



『桜の樹木学』

『桜の樹木学』（近田文弘//著 技術評論社）

日本の桜の品種は400種以上あり、その殆どが園芸品種で人間が改良したものとのこと。他の樹木とは比べられないほど鮮やかに咲く桜の花は、日本人の心を揺さぶる特別な存在のようです。本書は、樹木学と言う植物学的知識を用いてサクラの分類や花、葉、枝などの作りを解説し、桜とはどういう存在なのかに迫ります。また、桜を人の目として鑑賞した詩歌や諺などに対する桜の立場を語ります。きっと人間が観賞して感じる世界とは違ったものが見えてくることでしょう。



『つくろう! たべよう! 行事食②』

『つくろう! たべよう! 行事食②』（坂本廣子//著 少年写真新聞社）

江戸時代になると花見は庶民が楽しむ行事になります。もとは農作業を始める前に野山に出かけて過ごす「山遊び」の風習が始まりとも言われ、山から下りてきた田の神様を酒やごちそうでもてなし、豊作を願ったと言われています。本書には、花見の定番の「卵焼き」から季節の「菜の花のあえ物」「たけのことふきの煮物」。花見のダンゴとともに欠かせない桜餅、それも関西風の道明寺と関東風の長命寺の作り方など、親子で一緒に作れるレシピが沢山載っています。

ほんわ館で読まれています

『楽園の楽園』

伊坂幸太郎//著 中央公論新社



謎の人工知能「天軸」の暴走で、世界は混乱に陥った。開発者が描いたという巨大な樹の絵画「楽園」を手掛かりに、主人公ら3人は暴走する「天軸」の所在を探る旅に出ます。

『C線上のアリア』

湊 かなえ//著 朝日新聞出版



両親を亡くし叔母に引き取られた美佐は、高校時代を山間部の田舎町で過ごす。それから30年、認知症の症状が見られる叔母を訪ねると家はおみ屋敷と化していた。片付けをする中で見つけたのは…。

『風待荘へようこそ』

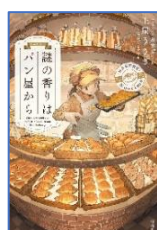
近藤史恵//著 KADOKAWA



京都の山間にあるゲストハウス「風待荘」。ここにやってきたゲストたちのエピソードを通じ、心の癒しと再生の物語が展開される。自分自身と向き合い、新たな希望を見つけ立ち直っていく姿が感動的に描かれています。

『謎の香りはパン屋から』

土屋うさぎ//著 宝島社



大学生の小春はパン屋でアルバイトをしている。あるとき親友の由貴子にドタキャンされてしまう。誘ってきたのは彼女のほうなのにどうして？ 小春は彼女の行動を振り返り、意外な真相に辿りつく…。